

☎問い合わせ先



▲隆景が幼少期を過ごした郡山城(安芸高田市)

徳寿丸の誕生
隆景は天文2(1533)年、安芸国(現在の広島県西部)を治めていた毛利元就とその妻、妙玖の三男として郡山城(現在の安芸高田市)で生まれました。幼名は徳寿丸。小さい頃から有能

でした。その頃、中国地方は出雲を拠点とする尼子晴久と山口を拠点とする大内義隆が争っており、元就は大内氏の勢力を背景に少しずつ力を伸ばしていました。天文10(1541)年、元就は、大内氏の指示で、大内氏から離反し、尼子氏側についた武田元繁の佐東銀山城(現在の広島市安佐南区)を攻めました。この戦いは元就の勝利に終わりましたが、毛利側に付いていた竹原小早川家の当主・興景が病死しました。

興景には跡継ぎがいなかったため、竹原小早川家は徳寿丸を養子として望みました。これは、興景の妻が元就の姪であったこと、勢力を拡大していた毛利家とのつながりを深めようとしたことなどが理由と考えられます。当初、元就は10歳になったばかりの末っ子を養子に出すことをためらっていましたが、大内義隆の勧めもあり、この話を承諾しました。こうして天文13(1544)年、隆景は12歳で竹原小早川家の養子となりました。現代の成人式に当たる元服の時期は定かではありませんが、史料から天文16(1547)年後半から天文17(1548)年前半の間と伝えられています。諱(実名)は、養父の興景と大内義隆から一文字ずつを譲り受け、隆景としました。通称は又四郎(またしろう)としました。竹原市には、竹原小早川家が本拠地とした木村城跡、竹原小早川家の墓所、隆景を祀った和賀神社、竹原小早川家の家臣が住んでいた手島屋敷、瀬戸内



瀬戸内三原 築城450年事業

☎文化課

☎0848-649234

『三原市史 第一巻 通史編一』
昭和52年 三原市役所 編
集兼発行
『小早川隆景のすべて』
平成9年 新人物往来社 編
『歴史群像 4月号』
平成6年 学習研究社

徳寿丸の誕生

でした。

三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。小早川隆景はその知略だけでなく、江戸時代に記された軍記物語『陰徳太平記』で「さまざまな木に先立って緑を発する柳に似ている。治国保民の器量に優れ、愛和を大切にしている仁将である」と評されるなど、古くから、思慮深く、信義を重んじる人柄も高く評価されていました。近年では、ドラマやゲームなどにも登場し、幅広い層から注目されている小早川隆景。これから一年間、広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に、その生涯をたどりま

戦国屈指の知将
小早川隆景

ものがたり ①



竹原小早川家の相統

興景には跡継ぎがいなかったため、竹原小早川家は徳寿丸を養子として望みました。これは、興景の妻が元就の姪であったこと、勢力を拡大していた毛利家とのつながりを深めようとしたことなどが理由と考えられます。当初、元就は10歳になったばかりの末っ子を養子に出すことをためらっていましたが、大内義隆の勧めもあり、この話を承諾しました。こうして天文13(1544)年、隆景は12歳で竹原小早川家の養子となりました。現代の成人式に当たる元服の時期は定かではありませんが、史料から天文16(1547)年後半から天文17(1548)年前半の間と伝えられています。諱(実名)は、養父の興景と大内義隆から一文字ずつを譲り受け、隆景としました。通称は又四郎(またしろう)としました。竹原市には、竹原小早川家が本拠地とした木村城跡、竹原小早川家の墓所、隆景を祀った和賀神社、竹原小早川家の家臣が住んでいた手島屋敷、瀬戸内



▲手島屋敷(竹原市)



▲県史跡・木村城跡(竹原市)

海を支配していた小早川水軍の主導者・浦宗勝の菩提寺の勝運寺など、ゆかりの地があります。参考文献 『三原市史 第一巻 通史編一』 昭和52年 三原市役所 編 集兼発行 『小早川隆景のすべて』 平成9年 新人物往来社 編 『歴史群像 4月号』 平成6年 学習研究社

三原市の人口(2月28日現在)
※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	44,026 世帯 (+67)
人口	96,816 人 (-880)
男	46,423 人 (-316)
女	50,393 人 (-564)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索

税などの納期 (普通徴収)

○固定資産税・都市計画税(第1期)	納期限 5月1日(月)
夜間収納窓口(19時まで)	毎週木曜日
航空機の騒音測定結果(2月分)(Lden)	▶正広局(本郷町善入寺正広)=52.6 ▶本郷局(本郷町船木川西上)=52.6

あ・と・が・き
野球の世界一を決めるワールドベースボールクラシック。日本中がテレビの前に釘付けになりました。打者を惑わす多彩な球種を使い分ける投手は策略家ですね▼小早川隆景はその策略で毛利家の発展に貢献しました。幼い頃、兄・吉川元春との雪合戦では、誰も予想もしなかった作戦で勝ったそうです▼そんな隆景の人物像や功績を紹介する新コーナー「小早川隆景ものがたり」が今月号から始まりました。どんな物語が展開されるのか、私も楽しみです(Y)